



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 京都大学生物資源経済研究 2001, 7

ISSUE DATE:

2001-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/50605>

RIGHT:

# 京 都 大 学

# 生物資源経済研究

---

No.7

2001年12月

---

緑環境に関する意向の統計的分析

—学生に対するアンケート調査結果をもとにして—

..... 吉田 昌之 ( 1)

高知県檜原町森林組合における

FSC森林認証への挑戦とその成功要因 ..... 大田伊久雄 ( 21)

タイの食糧・農業・農政と経済危機 ..... 辻井 博 ( 39)

中国の請負農地配分に関する一考察

..... 浅見淳之・張文宝・曹力群・張曉輝・辻井 博・松田芳郎 ( 83)

中国の農民負担問題

—現状、根源と解決策について— ..... 沈 金虎 (101)

フランス農村における社会農業構造の変貌

—比較農村社会学的視点によるブルッ村の分析—

..... 末原 達郎・Sylvain CARDONNEL (135)

国際備蓄構想とその食料市場安定化効果 ..... 加賀爪 優 (167)

ワイン・ビジネス研究の対象と課題 ..... 小田 滋晃 (197)

---

## 『生物資源経済研究』規定

### 1. 編集要領

#### (1) 執筆者

生物資源経済学専攻教官、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに執筆できる。

#### (2) 発行回数と別刷り

当年度1回の発行とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈、それ以上は著者の実費負担とする。

#### (3) 原稿の採否の決定

原稿の採否の決定は編集委員会が行う。

#### (4) 著者校正

著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

### 2. 執筆要領

(1) 原稿の種類は論文と研究ノートの2種とし、著者は原稿にそれがどの種類に属するかを明記する。

(2) 原稿の長さは図表を含め、和文の場合は横書き400字詰めA4原稿用紙で、50枚以内とする。

英文の場合図表を含め、A4用紙にダブル・スペース（28行、1行10～15単語）で、30枚以内とする。和文の場合英文サマリー（300単語以内）と英文題名を、英文の場合和文サマリー（800字以内）と和文題名を投稿と同時に提出する。原稿はコピーを2部作成し合計3部、編集委員長ないし副委員長に完成原稿を提出する。

(3) ワードプロで執筆の場合は、A4版用紙に40×40字で横書き印刷した原稿とテキスト・ファイル形式でセーブした3.5インチ・フロッピー（著者名、論文テーマ、ファイル名、使用アプリケーション・ソフト名、使用パソコン・ワードプロ機名を表記したもの）1枚を提出する。

(4) 特殊な専門用語・学術用語の他は原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。

#### (5) 節項表示は

1. (1)、1)、a のようにする。

(6) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。

#### (7) 図表

1) 加工：分かりやすいように加工し、刷り上がりを考慮して縮約に努める。

2) 用紙：図は上質白紙を使用し、トレースするかレーザー・プリンターで印刷したものを提出する。

3) 図表題：各論文ごとに各図表の上に、第1表、第2表、…第1図、第2図…のように番号を順番に付け、図表題を簡潔に付ける。各図表の下に典拠ないし参考文献と、必要なら注を付ける。

4) 位置表示：編集作業をスムーズにするため原稿の右マージンに図表の入る位置を示す。

#### (8) 注

本文内の関係箇所（片括弧で1)、2)、…と肩書きする。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各論文の末尾にまとめて記述する。

#### (9) 引用文献

引用文献を別記する場合は和文と欧文別にまとめ、和文は著者姓のアイウエオ順、欧文は著者姓のアルファベット順に下記例に従って、( ) 内に文献番号を順に付けて、注の後に表記する。また、本文中の引用方法は次の例のようにする。例：著者姓（文献番号）

#### 引用文献

(1) 並木正吉「農業保護の理由」『農業と経済』第51巻第11号、25-35頁、1985年10月。

(2) 堀田忠夫「米の消費・流通と寡占競争市場」（亀谷編著『アメリカ米産業の素顔』富民協会、1988年刊所収）。

(3) 増井幸夫『農村労働市場の計量分析』、大明堂、1995年2月。

(4) 南 亮進著『日本の経済発展』、東洋経済新報社、1981年12月。

(5) Bank of Thailand, *Quarterly Bulletin*, Vol.24 No.1, March 1984.

(6) Farrell, J., J. C. Ingram and J. M. Keynes, "Information and the Coase Theorem," *Economic Perspective*, Vol.1, No.2, 25-35pp., Fall 1987.

(7) Geertz, Clifford, *Agricultural Involution*, Berkeley: University of California Press, 1966.

(8) U. S. D. A., E. R. S., Rice, *Situation and Outlook Report*, RS-53, September 1989.

### 付 記

(1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。

(2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。

(3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。

## 執筆者紹介（掲載順）

吉田 昌之	森林・林業政策学分野
大田伊久雄	森林・林業政策学分野
辻井 博	国際農村発展論分野
浅見 淳之	国際農村発展論分野
沈 金虎	地域環境経済学分野
末原 達郎	農学原論分野
加賀爪 優	地域環境経済学分野
小田 滋晃	経営情報会計学分野

### 『生物資源経済研究』第7号の編集を終えて

本年も専攻の重要な研究成果として『生物資源経済研究』第7号が出版できました。専攻教官の日頃の研究・教育に対する研鑽と編集へのご協力の結果の賜物だと思っております。

さて、本年度、次の2点について当編集委員会で検討し、専攻会議で了承されました。

第1点は、執筆者に関する本規定の改正であります。この件に関しては昨年度の編集委員会でも議論されましたが、『生物資源経済研究』出版の趣旨とこれまでの議論を踏まえ、本専攻の院生にも別途定められた専攻内規に基づいて執筆の機会が与えられることになりました。

第2点は、『生物資源経済研究』編集に伴う作業の外部委託化であります。第6号まで編集に関する様々な作業は実質的に編集委員会副委員長が担って参りました。しかし、大学改革等で近年研究・教育雑務が大幅に拡大してきており、教官雑務の軽減が求められてきております。その流れの一環として、今回より、ルーチン化できる編集作業を一定の料金を支払って外部化することになりました。そのため、幾つかの業者の内から京都大学生協企画部が選定されました。また、この点と関連し基本的には印刷も京都大学生協に継続的に委託できることが事務的にも確認できました。

以上『生物資源経済研究』編集に関するこれまでの主要な案件が、一応今年度解決できることになりました。次回第8号への専攻教官の益々のご協力を強く期待いたします。

平成13年12月25日

編集委員長 祖田 修

『生物資源経済研究』第7号編集委員（五十音順）

浅野 耕太	浅見 淳之	足立 芳宏	大田伊久雄
小田 滋晃（副委員長）	祖田 修（委員長）	沈 金虎	新山 陽子

### 京都大学 生物資源経済研究 第7号

2001年12月25日 印刷

2001年12月25日 発行

編集 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
『生物資源経済研究』編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 京都大学生協生活協同組合

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

生物資源経済研究 第7号

1部

2  
0  
5  
8  
6  
0  
6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻司書室 行





# The Natural Resource Economics Review

## Kyoto University

---

No.7

December 2001

---

A Statistical Analysis of Expectations with regard to Green Environment  
—Using Results of Two Questionnaire Surveys for the Students—  
..... Masayuki YOSHIDA ( 1)

Strategies and factors of Yusuhara Forest Owners Cooperative  
to be approved by Forest Management Certification of Forest  
Stewardship Council  
..... Ikuo OTA ( 21)

Food, Agriculture, and Agricultural Policy of Thailand and  
the 1997 Economic Crisis  
..... Hiroshi TSUJII ( 39)

A Study of Contract Lands Allocation in Rural China  
..... Atsuyuki ASAMI · W.Zhang · L.Cao  
· X.Zhang · H.Tsujii · Y.Matsuda ( 83)

Problem of Farmer's Tax and collection Burdens in China  
—*Status quo*, Roots and Problem-Solving Measures—  
..... Jinhu SHEN (101)

The Transformation of Socio-Agrarian Structure in  
French Rural Community—A Case Study of Brux—  
..... Tatsuro SUEHARA · Sylvain CARDONNEL (135)

International Reserve Stock Proposal and  
Its Food Market Stabilization Effects  
..... Masaru KAGATSUME (167)

Targets and Topics for Wine Industry Research  
..... Shigeaki ODA (197)

---

Natural Resource Economics Division  
Graduate School of Agriculture  
Kyoto University